

# 新潟県に災害をもたらした主な気象事例

## 昭和59（1984）年12月21日から31日にかけての大雪

### 強い冬型の気圧配置による大雪

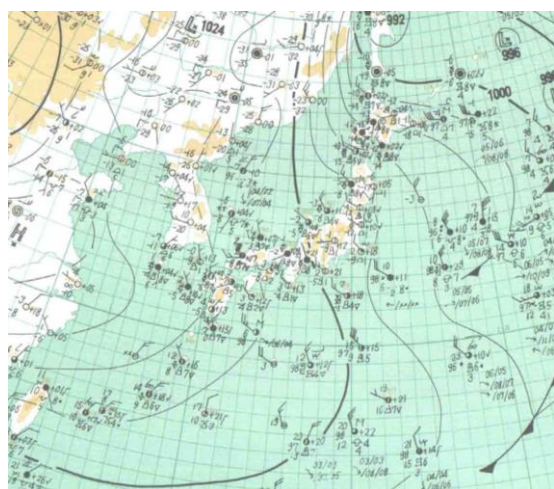
～平地、山地ともに広範囲で連日の大雪 交通障害などが多発～

#### 【概要】

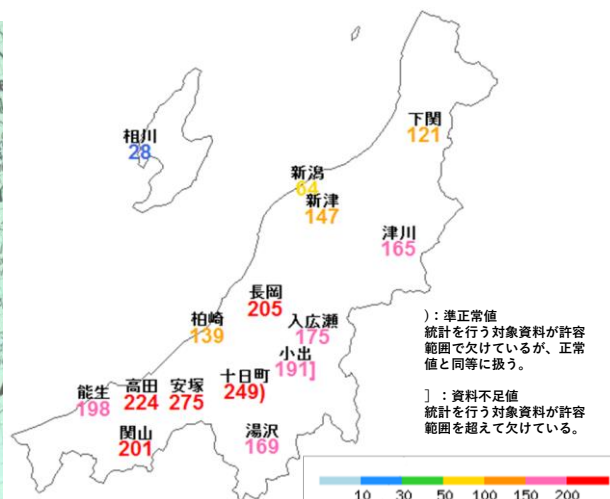
昭和59（1984）年12月21日から31日にかけて日本付近は冬型の気圧配置となり、上空に寒気を伴った小さな低気圧が通過したことや強い寒気が流れ込んだことなどにより、北日本から東日本の日本海側では断続的に雪が降り続いた。新潟県では21日から31日にかけて、平地、山地ともに広い範囲で連日の大雪となり、長岡では降雪の深さが40センチ以上となる日が6日間連続し、上越市高田では70センチ以上となる日が3日間続いた。最深積雪は上越、中越で200センチ、下越でも100センチを超えたところがあり、複数の観測地点で12月の極値を更新し、観測史上1位の記録となっている（2022年現在）。また、寒気の流入に伴って気温が下がり、特に25日は新潟で最高気温が0℃を下回り、12月としては1949年以来となる真冬日を観測した。

この大雪で除雪作業中の事故が多発し、雪下ろし中の転落や落下雪などによって死者14名、負傷者49名の人的被害が出た。また、列車の運休や遅延、スリップによる事故などの交通障害も発生した。

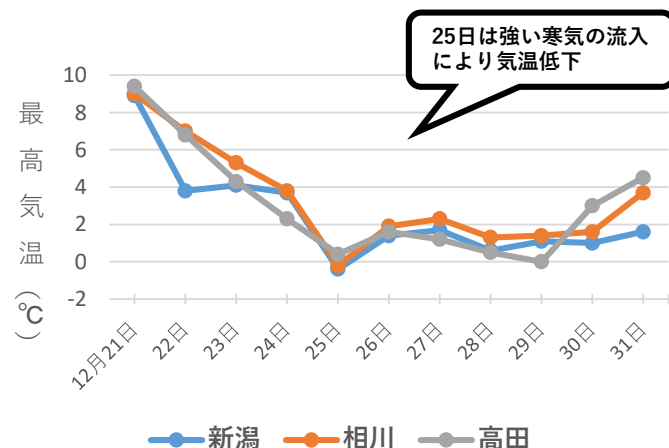
（被害状況：新潟県災害時気象速報、防災科学技術研究資料 第104号より）



地上天気図 昭和59年12月25日9時



昭和59年12月21日から31日までの最深積雪 (cm)



昭和59年12月21日から31日までの最高気温の推移